



ジェイテクトSTINGS

◇選手コメント
本間隆太選手
 2020年は新型コロナウイルスの影響でアスリートとして難しいシーズンでしたが、最後に優勝できてものすごく達成感がありました。地道にトレーニングを積んできたことが報われたと感じました。
 次はリーグ連覇を目標に、これからも努力を続けていきます。また個人としては延期された五輪を目指し、一歩ずつ前進していきます。

福山汰一選手
 とてもタフな試合でしたが最後まで一人一人が役割を果たした結果、三大会の一つを優勝することができ、素直にうれしかったです。年明けからのリーグ戦に向けて良い弾みをつけることができましたと思います。

リーグ戦そして、黒鷲旗の二大会でも優勝を目指して頑張りたいと思います。リーグ戦は現在開催されているので、一度試合を観ていただければと思います。今後とも応援よろしくお願いします。



▲左から西田有志選手、福山汰一選手、本間隆太選手

西田有志選手
 大会を通して、学生などいろいろなカテゴリーのチームと試合ができて良かったと思いますし、上手いかないことも踏まえていい経験になったと思います。
 決勝のパンサーズ戦では、負けるということは全く考えてはいなかったです。どんな状況になっても戦う気持ちを忘れず戦った結果、優勝できて良かったと思います。リーグでも優勝を目指して頑張ります。



天皇杯初優勝！



悲願の初優勝！
 初優勝を狙うジェイテクトスティングスと、3年ぶりの優勝を狙うパナソニックパンサーズがぶつかった天皇杯決勝。この対決は、昨シーズン、スティングスが優勝したVリーグ決勝と同じカードとなりました。
 第1セットは、福山汰一選手のサーブミス、藤中優斗選手のアタック、さらに西田有志選手の連続サーブミスで勢いに乗り、セットを先取。第2セットはパンサーズの安定したレシーブ、アタックなどで惜しくもセットを落とします。しかし、第3セットでは西田選手、フェリペ選手、福山選手を中心に相手を圧倒し、第4セットでも前セットの勢いに乗り、追従するパンサーズを突き放し、初優勝しました。

この試合では、西田選手が37得点と得点を量産。また、ゲームキャプテン福山選手がアタック決定率100%をマークするなど、チーム力で相手を上回ったスティングス。今後のリーグ戦、黒鷲旗でも優勝が期待されます。
 高橋慎治監督は「まずは大変な状況の中、試合ができたことを本当にうれしく思います。天皇杯に関わった皆さまに、心より感謝いたします。天皇杯優勝は今シーズンの目標の一つなのでクリアできて良かったです。また、初優勝という新たな歴史をつくれたことをうれしく思います。強い気持ちで終始攻め続けたことが勝利につながったと思います」と話しました。

男子バレーボールV1リーグに所属している市ホームタウンバー「トナー」ジェイテクトスティングスが、天皇杯決勝でパナソニックパンサーズを破り、初優勝を飾りました。
 天皇杯での戦いぶりおよび監督・選手のコメントとともに、チームメンバーを紹介します。